

新

資料5

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

(事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について)

令和2年1月10日

協議会名:	田原市地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統
----------	-------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>[将来像]だれもが安心して移動できるまち</p> <p>[取組姿勢]協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網</p> <p>[全体目標]まちづくりの基盤となる公共交通の確立</p> <p>【実現目標】</p> <ul style="list-style-type: none">○多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現<ul style="list-style-type: none">⇒移動の安全性の向上、移動手段の選択肢拡大を目指す。○まちづくりを促進し、まちの魅力を高める公共交通の実現<ul style="list-style-type: none">⇒定住・交流人口の拡大、都市形成の推進・都市機能の維持向上、環境共生・福祉など地域課題の解消、観光・商業など地域活力の向上を目指す。○市民の幸福に貢献する公共交通の実現<ul style="list-style-type: none">⇒潤い豊かな暮らし方の実現を目指す。 <p>【公共交通網】</p> <ul style="list-style-type: none">○「幹線乗合交通」を基軸とし、その範囲外を「コミュニティ乗合交通」「有償パーソナル交通」「政策交通」が順次補完(役割分担・連携)し、更にこれらを企業送迎・助け合い活動が補うことで市民等の移動を確保する。
-----------------------------	---

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月10日

協議会名:田原市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 評 価	A ・ B ・ C 評 価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載	
豊鉄ミディ(株)	ぐるりんバス市街地線 (田原駅～田原駅) [※H30.12 公有民営方式車両購入費補助を受けバス車両2台購入]	・平成30年10月に市街地西線・東線の2路線を市街地線1路線に統合した。	A ・ B ・ C 評 価	B	・市街地線に統合したが、目標値までは届かなかった。 ・1便当たり利用者数 4.5人(目標5.0人)	・統合後の利用者数等を分析し、利用促進に取り組む。 ・目標:1便当りの利用者数 5.0人
	ぐるりんバス童浦線 (白谷海浜公園～渥美病院)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有 ・令和元年10月より白谷海浜公園等(白谷地域)のバス停を新設のサンテパルク線へ付替えを実施した。		A	・目標値を達成した。 ・1便当たり利用者数 7.7人(目標5.0人)	・路線カルテを用いて地域と利用促進策を検討し実施する。 ・目標:1便当りの利用者数 5.0人
	ぐるりんバス野田線 (野田～野田)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有 ・令和元年10月より田原駅からサンテパルク(野田地域)や白谷海浜公園までの直通便となるサンテパルク線へ路線変更を実施した。		B	・幹線との路線競合を解消したが、幹線利用者は増加していない。市街地へ直接行かなくなり利便性が低下した。 ・1便当たり利用者数 3.1人(目標5.0人)	・路線変更後(サンテパルク線)の利用者数等を分析し、路線カルテを用いて地域と利用促進策を検討し実施する。 ・目標:1便当りの利用者数 5.0人
豊鉄タクシー(株)	ぐるりんミニバス表浜線 (図書館～図書館)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有 ・令和元年10月より高松線の一部を統合したルート変更・ダイヤ変更を実施した。	A ・ B ・ C 評 価	A	・目標値を達成した。 ・1便当たり利用者数 2.8人(目標2.0人)	・路線カルテを用いて地域と利用促進策を検討し実施する。 ・目標:1便当りの利用者数 3.0人 (※目標値を見直し 2.0人 → 3.0人)
	ぐるりんミニバス八王子線 西行き便 (八王子東～ライフランド)	・令和元年10月より八王子線を廃止し、地域主体でタクシーを利用した代替手段への変更を実施した。		B	・常連の利用者の利用が減少した。 ・1便当たり利用者数 1.1人(目標2.0人)	・八王子線を廃止したため、当該年度で事業が完了となった。
	ぐるりんミニバス八王子線 東行き便 (泉市民館～野田)	・令和元年10月より八王子線を廃止し、地域主体でタクシーを利用した代替手段への変更を実施した。		B	・常連の利用者の利用が減少した。 ・1便当たり利用者数 1.3人(目標2.0人)	・八王子線を廃止したため、当該年度で事業が完了となった。
渥美交通(株)	ぐるりんミニバス高松線 (高松東～図書館)	・令和元年10月より高松線を廃止し、一部を表浜線に統合した。	B	B	・沿線の人口が少なく、目標達成は難しい。 ・1便当たり利用者数 1.2人(目標2.0人)	・高松線を廃止したため、当該年度で事業が完了となった。

中部様式1

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

田原市地域公共交通会議

平成19年3月23日設置

フィーダー系統 平成30年6月19日 確保維持計画策定等

(1) 地域の特性

- ・渥美半島に位置する田原市は、市町村合併により田原・赤羽根・福江の市街地と点在する集落地域によって構成されている。
- ・本市は地理的・産業的条件から、マイカー依存度が極めて高い。

(2) 地域公共交通網形成計画

将来像：だれもが安心して移動できるまち

取組姿勢：協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網

全体目標：まちづくりの基盤となる公共交通の確立

計画期間：平成26年度から令和4年度（平成34年度）まで

定量的目標：市内における公共交通利用者数の維持（165万人）



※補助対象路線

- ・地域間幹線系統補助：幹線交通（豊鉄バス 伊良湖本線・支線）
- ・フィーダー系統補助：コミ乗合交通（田原市ぐるりんバス）

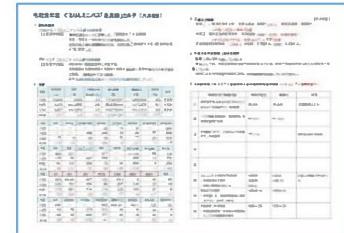
(1) 田原市ぐるりんバスの運行内容変更（令和元年10月変更）

- 平成27年の再編により利用者が少なくなった路線の変更及び廃止（一部統合）

路線名	変更内容
野田線⇒サンテパルク線	・田原駅からサンテパルク（野田地域）や白谷海浜公園までの直通便となるサンテパルク線へ路線変更を実施した。
表浜線	・高松線の一部を統合したルート変更・ダイヤ変更を実施した。
高松線	・高松線を廃止し、一部を表浜線に統合した。
八王子線	・八王子線を廃止し、地域主体でタクシーを利用した代替手段への変更を実施した。

(2) 路線カルテの作成及び地域との協議（平成29年4月から）

- カルテ目的：路線情報の共有、目標管理、地域による利用促進実施
- カルテ内容：利用人数、運行経費、収支率、目標、利用促進の取組等
- 6月に各地域を回り、カルテの説明と利用促進事業の実施を依頼



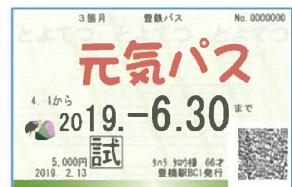
[地区別路線カルテ]

(3) 運転免許証自主返納支援事業の実施（平成29年4月から）

- コミュニティバスの1年間無料乗車券の交付
- 元気バス引換券の交付（豊鉄バス:1乗車100円）
- たまぽカード1,000ポイントを交付



[コミバス無料乗車券]



[元気バス]

(4) 高校生バス通学用定期券購入助成の実施（令和元年9月から）

- 目的：公共交通の維持活性化及び保護者の負担軽減を図る
- 対象者：豊鉄バスを利用して通学する市内在住の高校生
- 助成率：豊鉄バスの通学定期購入費に対して3割を助成
- 対象区間：最寄りのバス停から、通学校の最寄りのバス停の区間（田原市内が対象区間）

(1) 自己評価を行った会議

- ・令和2年1月10日（金） 田原市地域公共交通会議

(2) 目標に対する評価（地域公共交通網形成計画）

目標	目標値 (H28・H29集計値)	実績値 (H30. 4. 1～H31. 3. 31)	目標達成状況
市内公共交通利用者数の維持	165.0万人	162.6万人	未達成
内訳	目標値（人）	平成30年度実績（人）	
渥美線（市内4駅）	733,000	730,861	未達成
路線バス（伊良湖本線・支線）	329,000	292,353	未達成
フェリー・高速船	387,000	405,519	達成
コミュニティバス	97,000	95,043	未達成
タクシー	104,000	103,027	未達成
計	1,650,000	1,626,803	

◆目標達成状況についての考察

- ・フェリー・高速船以外は目標を達成することができなかった。
- ・渥美線：近年は利用者数が概ね横ばいとなっている。
- ・路線バス：沿線の学生数が減少しており、利用者数は減少傾向にある。
- ・フェリー・高速船：目標値に達している。
- ・コミュニティバス：路線の統合により便数が減ったことに伴い利用者数が減少した。
- ・タクシー：前年度に比べ増加はしたが、目標値に達していない。

(3) コミュニティバスに関する評価（生活交通確保維持改善計画目標評価）

区分		目標 (H30. 10. 1～R1. 9. 30)	令和元年度実績 (H30. 10. 1～R1. 9. 30)	目標達成状況
ぐるりんバス	市街地線	1便当たり利用者数を5.0人以上にする。	4.5人／便	未達成
	童浦線		7.7人／便	達成
	野田線		3.1人／便	未達成
ぐるりん ミニバス	表浜線	1便当たり利用者数を2.0人以上にする。	2.8人／便	達成
	高松線		1.2人／便	未達成
	中山線		2.8人／便	達成
	八王子線		1.1人／便	未達成

◆目標達成状況についての考察

- ・市街地線：平成30年10月から市街地東線・西線を統合したが、目標値には届いていない。
- ・童浦線：平成29年度から臨海企業従業員の利用が増加しており、令和元年度の利用実績は横ばいであった。
- ・野田線：小中学生の利用が増加したが、一般の利用者は増加していない。
- ・表浜線：免許返納者の利用が大きく増加しており、常連客も増加している。
- ・高松線：利用者数は、ほぼ横ばいであり、目標の達成は難しい。
- ・中山線：目標を達成しているものの、常連客の利用が減少している。
- ・八王子線：常連客（福祉施設まで乗車）の利用が減少しており、目標の達成は難しい。

◆今後の方針

- ・令和元年10月に行った路線変更後のバス停ごとの利用状況等を分析し、路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進に取り組む。

(1) 課題（平成27年10月のコミュニティバス再編後の利用者減少及び運行経費の増加）

○利用者減少の理由

- ・臨海部企業の期間従業員が減少した。
- ・ぐるりんミニバス路線の車両小型化により、団体利用（保育園遠足等）ができなくなった。
- ・利用者にとって不便になった路線・箇所がある。

○運行経費の増加

- ・再編に伴い地域に意見を取り入れ、地域ごとに路線を決定したため、人件費が増加した。
- ・運行事業者数の増加（1者→3者）に伴い諸経費が増加した。

(2) 課題に対する取組と今後の方針

- 平成27年度の再編方針を踏まえて、利用者にとって不便になった箇所を改善した。（平成29年4月）
・ぐるりんミニバス東部六連線・神戸線を表浜線（循環線）に統合 等

- 平成30年10月に運行内容の一部変更
・市街地東線と市街地西線を「市街地線」へ統合 ・表浜線の一部ダイヤ及びルートを変更

- ↓
- 平成30年5月～平成31年2月 関連地域コミュニティ協議会と運行内容協議⇒運行内容（案）作成
○平成31年3月 交通会議にて運行内容（案）承認 [地域公共交通網形成計画の一部見直し承認]

○令和元年10月に運行内容の変更を実施

- ・野田線を田原駅からサンテパルク（野田地域）や白谷海浜公園までの直通便となるサンテパルク線へ路線変更を実施
- ・高松線を廃止し、一部を表浜線に統合
- ・八王子線を廃止し、地域主体でタクシーを利用した代替手段への変更を実施

【今後の取組】

- ↓
- 路線変更後のバス停ごとの利用状況等を分析し、課題を抽出する
○路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進策を検討し実施
○利用実態に合わせて、より良い路線とするため、ダイヤ・ルート等の変更を検討

中部様式2

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

田原市地域公共交通会議

平成19年3月23日設置

フィーダー系統 平成30年6月19日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>【地域フィーダー系統】 ぐるりんバスの車内放送に田原市出身のタレントを起用していることや、「元気バス」「渥美線と伊良湖本線・支線との乗継割引」を紹介したチラシの配布などの利用促進策を行っていることは評価します。</p> <p>一方で、平成27年10月のコミバス再編により利用者が大幅に減少していることから、早急な対応が必要です。</p> <p>特に市街地バスの位置づけが不明確のためそれぞれの路線の目的や役割を明確にしたうえでより利便性の高い公共交通ネットワークの再構築を期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、豊鉄バス「伊良湖本線・支線」の元気バス、乗継割引等のお得な乗車券及びバスの乗り方を紹介したチラシ配布を実施した。 平成29年4月にコミバス再編後、利用者にとって不便なった箇所を応急的に改善した。 平成30年10月に市街地東線と市街地西線を「市街地線」へ統合した。 令和元年10月に野田線をサンテパルク線に変更し、高松線と八王子線を廃止した。 	<ul style="list-style-type: none"> 路線変更後のバス停ごとの利用状況等を分析し、課題を抽出する。 路線カルテを用いて地域と情報共有し、地域と協力しながら利用促進を取り組む。 利用実態に合わせて、より良い路線とするため、ダイヤ・ルート等の変更を検討する。

2.アピールポイント

9

【路線カルテの作成及び地域との協議（平成29年4月から）】

- ・カルテ目的：路線情報の共有、目標管理、地域による利用促進実施
- ・カルテ内容：利用人数、運賃収入、収支率、目標、利用促進の取組等
- ・6月に各地域を回り、カルテの説明と利用促進事業の実施を依頼
- ・利用促進策を取りまとめ、各地域に取組事例を情報共有

名取地区 <ひらん北バス> 路線カルテ [名取町]	
この路線カルテは、名取地区のバス路線情報をまとめたものです。各路線の運行概要、乗車料金、停車場所、運行時間など重要な情報を掲載しています。	
また、各路線の運行状況や乗車率、収支率などの実績データも記載されています。これらの情報により、地域の公共交通機関の運営状況を把握し、より効率的な運営を目指すための参考となることを目的としています。	
この路線カルテは、定期的に更新され、最新の情報が反映されています。また、各路線の運行状況や乗車率、収支率などの実績データも記載されています。これらの情報により、地域の公共交通機関の運営状況を把握し、より効率的な運営を目指すための参考となることを目的としています。	
この路線カルテは、定期的に更新され、最新の情報が反映されています。また、各路線の運行状況や乗車率、収支率などの実績データも記載されています。これらの情報により、地域の公共交通機関の運営状況を把握し、より効率的な運営を目指すための参考となることを目的としています。	

[地区別路線カルテ]

【高校生バス通学用定期券購入助成の実施（令和元年9月から）】

- ・目的：公共交通の維持活性化及び保護者の負担軽減を図る
- ・対象者：豊鉄バスを利用して通学する市内在住の高校生
- ・助成率：豊鉄バスの通学定期購入費に対して3割を助成



[高校生通学風景]

【豊鉄バス伊良湖支線を往復1便増便（令和元年10月から）】

- ・伊良湖支線については、平日片道7.5便／日しかなく、昼間の時間帯に約4時間便がない時間があるなど、不便であった。
⇒1便増便することで、病院の帰りの際に待ち時間が減り、利便性が向上した。

【利用促進策の展開】

- ①夏休み小学生50円バス＆整理券ラリーを実施
 - ・バス運行事業者、東三河8市町村が協働で行う広域での取組
- ②運転免許証の自主返納事業を実施
- ③田原市公共交通ガイドブックの作成
- ④中高校生用及び路線バス用の利用促進パンフレットの作成
- ⑤その他普及啓発事業等
 - ・夏休み親子バス体験教室の実施
 - ・コミュニティバスのオープンデータ化に着手



[夏休み50円バスポスター]



[ガイドブック]



[高校生用パンフレット]



[親子バス体験教室]